

1 健全化判断比率

単位：％

年度	実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
H23	— (14.74)	— (19.74)	15.9 (25.0)	132.3 (350.0)
H22	— (14.72)	— (19.72)	15.5 (25.0)	164.1 (350.0)

※備考 括弧内は早期健全化基準

(1) 実質赤字比率

一般会計の赤字の程度を指標化し、財政運営の深刻度を示すものです。

平成23年度の金ケ崎町一般会計の実質収支は162,336千円で、実質赤字比率は生じませんでした。

(2) 連結実質赤字比率

一般会計に公営企業、その他の特別会計の赤字や黒字を合算したうえで町全体としての赤字の程度を指標化し、全体の財政運営の深刻度を示すものです。

平成23年度の金ケ崎町の全会計の実質収支は672,288千円で、連結実質赤字比率は生じませんでした。

(3) 実質公債費比率

一般会計が負担する元利償還金や一部事務組合、債務負担行為に基づく支出等のうち公債費に準ずる支出等の借入金返済額に特別会計等の借入金返済額に対する一般会計負担額を合算したうえで、その負担の大きさを指標化し、資金繰りの危険度を示すものです。

平成23年度は、起債償還額が前年度に比べ50,050千円増加したことにより15.9％で、前年度比0.4ポイント増となりました。昨年度に引き続き18％未満をクリアしている状況であり、ほぼ財政見通しのおおりの推移となっておりますが、起債償還のピークが続きますので引き続き繰上償還を実施し18％未満を堅持していきます。

【実質公債費比率の推移見通し】

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
実質公債費比率（単年度）	17.3%	18.8%	17.6%	15.4%	16.3%	15.5%	15.5%
実質公債費比率（3ヶ年度の平均）	15.5%	15.9%	17.3%	17.8%	17.2%	16.4%	15.7%

(4) 将来負担比率

一般会計の借入残高、特別会計等の借入残高や一部組合や第三セクター等の借入残高に対する一般会計負担見込み額など、各負債に対して一般会計が将来負担する可能性のある額の大きさを指標化し、将来の財政の圧迫度を示すものです。

平成23年度は、起債残高の減少や基金残高の増により132.3%で、前年度比△31.8%となり、昨年度に引き続き大きく改善いたしました。しかし、県内市町村の中ではまだ高い方に位置しているため、引き続きプライマリーバランスの黒字を堅持しながら起債残高の減少に努めていきます。

2 資金不足比率

会計の名称	資金不足比率(%)	備 考
金ケ崎町水道事業会計	—	経営健全化基準 20.0%
金ケ崎町下水道事業特別会計	—	
金ケ崎町農業集落排水事業特別会計	—	
金ケ崎町浄化槽事業特別会計	—	

公営企業の資金不足を、料金収入の規模と比較のうえ指標化し、経営状況の深刻度を示すものです。

平成23年度もすべての公営企業で資金不足比率は生じませんでした。下水道事業及び農業集落排水事業については、起債の繰上償還実施も検討しながら、引き続き将来負担額の減少に努めていきます。